



## 第29回 日本語スピーチ・コンテスト優秀者発表会

# グローバル・ジャパニーズの時代が到来

## 自国の誇りを胸に、世界を「言葉」の架け橋でつなぐ

日外協は、2014年にASEAN各国で行われた日本語スピーチ・コンテストの優秀者を招聘して、スピーチ発表会を昨年10月23日に鉄鋼会館で開催した。インドネシア、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ラオス、カンボジアの8カ国からの12人が、各国関係者や学生等の前で受賞したスピーチを披露した。

発表後、桜美林大学経済経営学系教授・馬越恵美子先生より、「皆さんの日本語は日本人の日本語とは違う。だから良い。ダイバーシティ、それぞれのグローバル・ジャパニーズの時代が到来したというのが実感です。日本語をガラパゴス化させないために、ぜひ自信を持って今の日本語で突き進んでいただきたい」との講評をいただいた。日外協の伊藤一郎会長からは、「英語も本来のネイティブの英語とは違うそれぞれの地域の個性・特徴を持って国際語となった。日本語もそれでいいと思う。

意思疎通ができて考え方が伝わればそれで十分。大変皆さんよく日本語を勉強されている」とのコメントがあった。

スピーチ発表後の交流会では、各国での日本語スピーチ・コンテストを支援した日本企業の担当者や十文字学園女子大学、早稲田大学などからの参加者代表にも感想を述べていただき、発表者と参加者の交流の輪を広げることができた。交流会は盛会のうちに終了した。

なお、昨年に引き続き、本事業の運営には特定非営利活動法人アイセック・ジャパンに多大なるご支援・ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

以下、スピーチの要旨をご紹介します。

(スピーチ内容は統一表記での要約。所属・年齢は発表会当時)

※本事業の詳細は日外協 HP 参照「日外協の活動」>「国際交流活動」

<http://www.joea.or.jp/activity/exchange/speechcontest>

\*写真は発表会当日、各国優秀者の皆さんと伊藤会長、講評の馬越教授ほか日外協関係者、アイセック・ジャパン関係者、参加国大使館関係者とは

### インドネシア

ルクマン ハキムさん

(アイルランガ大学 学生 20歳)

#### 「私の勇者」

皆さん、勇者とはどんな人ですか。勇者は、辛くても誰かのために困難に立ち向かい、人々に勇気を与えてくれる人です。

スラバヤで最も人気のある勇者は、ブン・トモです。1945年、スラバヤに上陸した英国人との戦いの際、人々の闘争心を奮い起こし、中心となっ

た人物です。日本の勇者は誰ですか。

勇者は、私の家族にもいます。それは私の父です。父はとても冷静で、私にいつも勇気を与えてくれる人です。父は電化製品の店を開いていましたが、私たちの家と店はラピンドの被害(2006年5月29日、ラピンド社



工場の地下から高温の泥が噴出した事故)に遭いました。泥によって周辺の家が全て埋もれ、人々は家や仕事をなくし、どうしたらいいか分からない状態になりました。父は家族のために諦めず、ボルネオ島に引っ越しもう一度店を開きながら、高校で化学教師としても働きました。しかし、ある日、父は突然交通事故で入院してしまったのです。頭から血を流す父を見て、私たちは本当に心配で悲しかったです。1カ月ほどで退院しましたが、今度は家に泥棒が入り、これまで貯めたお金を全部取られ、父の努力はあっという間に消えてしまいました。現在、父は家族のために、おじさんの店で一所懸命に働いています。

「七転び八起き」とは、まさに父のことです。良くない出来事にあっても決して諦めず立ち向かってきました。私なら途中で諦めてしまうかもしれません。父は本当にすごいと思います。

父は以前、私にこう言いました。「今までの悲しいことは忘れて、私の自慢になって。ルクマンは長男だから、強くならなければならない。頑張れ。ルクマンなら絶対日本へ行くことができる」。私は嬉しくて泣きそうになり、体中に力が湧いてきました。私は父と同じように一所懸命勉強して、必ず父に私が日本へ行くところを見せようと思います。それが、私と勇者の約束です。

皆さんの勇者は誰ですか。皆さんにもきっと、苦しい時や悲しい時に勇気をくれる勇者がいると思います。勇者はどんなことがあっても諦めません。諦めなければ何でもできる。そのことを私は父から学びました。私は父と同じように何があっても諦めず、将来、自分の子どもに「私の勇者は父です」と言われるような男になりたいです。

\*

### アルド クリスタントさん (マラナタ大学 学生 21歳) 「自分の国への思い」

皆さんは子どものときに「外国はいいな」とか「私の国は良いところなんてないな」と思ったことがありますか。私も子どもの時に自分の国を見て、恥ずかしいと思っていました。

最近のインドネシアの若者たちは、ほとんど自分の国の文化には関心がないと思います。伝統的

な文化を見たら、「田舎っばい」と思う人が少なくありません。

しかし、このような考え方はインドネシアだけではありません。私はインスタグラムというインターネットのアプリで、いろいろな国の友達ができました。そのアプリは写真をアップロードしてコメントや評価をもらったり、好きなユーザーをフォローしたりできます。友達と話をすると皆、自分の国に関心がありません。前の私はいつも日本の写真をアップしていました。そんな私を見た日本人の友達に「日本はそんなにかっこいいの？」と聞かれて、私はとってもびっくりしました。

私がインドネシアの写真をアップした場合は、他の国の友達が皆、興味を持って聞いてくれ、たまにほめてくれることもあります。外国人がこんなにインドネシアに興味を持っているのが分かり、私は素敵でインドネシアが好きになってきました。今は頑張ってインドネシアの写真をアップして説明するので、外国の友達ももっとインドネシアのことが好きになっていると思います。

皆さん、自分の国も素敵な文化を持っているでしょう。インドネシアも素敵です。インドネシアの各島は違う文化があって、伝統的な歌も楽器もダンスも他の国にはありません。ファッションも外国人から見ると素敵だそうです。美しいパティック(ろうけつ染め布地の特産品)はインドネシアにしかありませんし、布ですからいろいろなものが作れます。こういうことを外国人の友達と話したら、皆興味を持ってくれると思います。

私たちは自分の国の悪いところをよく知っていますが、外国は自分の国よりすごいわけではありません。他の国より自分の国をもっとよく見てみましょう。良い民族として、自分の国の悪さを見ても文句や悪口を言わず、できるだけ頑張って直すようにしましょう。自分から国のために良いことをしましょう。私たちの国にもっと感謝しましょう。皆さん、自分の国のことをもっと知って、もっと愛して、もっと良くしましょう。



## タイ

パースウィー シープラシットさん

(チェンマイ大学 学生 20歳)

## 「人工ダイヤモンド」

「最も貴重な宝石」といえば、皆さんは何を思い出しますか。私にとって、それはダイヤモンドです。ダイヤモンドは美しいだけではなく、とても硬く、地下に隠れていて、しかも石の中に少ししか含まれていませんから探すのが大変です。では、人工ダイヤモンドをどう思いますか。色や硬さや化学組成も天然のダイヤモンドと同じです。

でも、皆さんは探すのが難しい天然のダイヤモンドの方が貴重で素晴らしいと思うのではないのでしょうか。私にとっては、人工ダイヤモンドは天然のダイヤモンドと同じように素晴らしいものです。日本の若い人の中には「自分探し」といって、自分の中の天然ダイヤモンドを探し出そうとする人たちがいます。でも、これはいつになったら見つかるか分からないものを探そうとしているようです。その人たちは自分の好きなことや得意なことが分からないのでしょうか。そんなときは、天然のダイヤモンドを探すのではなく、人工ダイヤモンドを作ろうとすればいいのです。科学者が、実験で人工ダイヤモンドの作り方を発見したように、私たちは努力によって自分の才能をつくることのできるのではないのでしょうか。

4年前に中国のオーディション番組の勝者になったリウ・ウェイさんは両腕がないピアニストです。彼は事故で両腕を失ってから、一所懸命練習をして、腕があるピアニストぐらい上手に足でピアノが弾けるようになりました。ウェイさんはついに自分で人工ダイヤモンドを作ったのです。私も高校時代に大学を何学部にするか決めようとしたのですが、何が一番得意か分かりませんでした。でも、



ある時、日本のアニメや歌が好きなので日本語を専門にすることに決めました。私の日本語はまだダイヤモンドだとは言えませんが、今このスピーチで5分も日本語で話せるよう

になったのです。才能は、見つけるよりも自分でつくるのが大切だと気づきました。私はこれからももっと勉強して、ぜひ日本語を私のダイヤモンドにしたいです。

皆さんは、「どんな才能があるか」と聞かれても分からない人が多いでしょう。それは、見つかるかどうか分からない自分の中の天然ダイヤモンドを探そうとしているからだと思います。天然ダイヤモンドでなくてもいいです。迷っている時間があつたら、思い切って自分の人工ダイヤモンドを作ることにしませんか。それも、天然ダイヤモンドと全く同じダイヤモンドなのですから。

\*

ティーラポン ガイゲーオさん

(マハーサーラカム大学 学生 20歳)

## 「象と話せる言葉と外国語」

皆さんにとって素晴らしいものは何ですか。私にとって、言葉が一番素晴らしいものです。世界中のどの言葉も、それぞれ魅力があると思います。

私が育った村はタイ東部のシーサケット県にあり、「スワイ」という方言があります。このスワイ語はスワイの人にとって、とても大切なものです。スワイの歴史は全てスワイ語で伝えられてきたし、スワイの文化の土台だからです。スワイ語は住民によって昔から使いつづけていらしていますが、文字がなく覚えにくいので使う人が少なくなってきました。昔はスワイ語を使って象と話せると言われていましたが、発音がなまってしまい話せなくなりました。それでも、私はスワイ語を誇りに思います。なぜなら、村の人は独自の伝統を守るためにスワイ語だけを使って生活し、他の言葉を使わないからです。

ある日、私はシャツを買うために、スワイの村から離れたデパートへ行きました。私が「これいくら？」とスワイ語で言うと、店員は私を見ましたが何も言いません。私がその売り場を出ようとすると、「田舎者」という声が聞こえました。私はどうして「田舎者」と言われ



たか分かりませんでした。スワイ語は私の言葉だし、私を笑った人にも彼が使う言葉があります。どの言葉も、それを話す人にとっては貴重なものだから何語でも関係ないと思います。

言葉は同じではありません。どの国の言葉にも、方言にも特徴があります。言葉は自分の先祖から受け継いだものだからです。でも、スワイの多くの若者はスワイ語は無用と思って関心を持ちません。私はスワイ語が村からなくなるのが怖いのです。村の子どもに自分たちが話す言葉にどれほど価値があるか分かってほしいです。自分の言葉がなくならないように守りたいです。言葉は文化の土台です。言葉がなかったら文化は減ってしまいます。

また、言葉は人と人の文化をつなぐ架け橋だと思います。言葉がなかったら、相手と意思疎通をするのが困難です。言葉って奇跡です。私は聞いたことがない言葉が聞こえると嬉しくなります。誰が言葉を発明したか知りたくくなります。

私はこれからもスワイの言葉を大切にしていきます。そして、日本語もタイ語も私を育ててくれる大切な宝です。「こんにちは」「サワディー」「ジャンパー・ウィリア・タガイ」……どの言葉も素晴らしいと思います。

## フィリピン

ジョヴィリン ジョイス デルガードさん

(日本語教師 24歳)

### 「輪をつくる一人になりたい」

私は今回でこのスピーチ・コンテストに参加するのは3回目です。これまでは2回とも3位。やっと1位になれました。3度も参加するなんて、よっぽど人の前で話すのが好きなんだなと思いますよね。実は、私は長い間、人前で話すどころか、人と目を合わせることもできなかつたのです。

私は小学校2年生まで、家族以外の人と全く会話ができない、いわゆる「場面緘黙症<sup>かんもく</sup>」でした。怒られるかもしれない、嫌われるかもしれないという不安が強く、話すことができなかつたのです。

小学校3年生くらいから、少しは人と話すことができるようになりました。でも、よく話せるのは仲のいい友達1人だけ。相手の目が見られず、話し方がぶっきらぼうになってしまい「変わって

る子」、「なんか怖い」などと思われていました。このような状態は大学生になってもあまり変わりませんでした。

そんな私の転機は大学3年生の時に訪れました。なんと日本語スピーチ・コンテストに出場す



ることになったのです。しかし、人の目を見て話す恐れを克服するのは簡単ではなく、スピーチの練習は本当に辛かったです。結局、コンテストでは入賞できませんでしたが、私には思わぬ収穫がありました。練習を積み重ねたことによって、普段でも人の目を見て話せるようになったのです。

目を見て話せるようになってから、私の世界は少しずつ変わり始めました。学校で打ち解けて話せる仲間が増え、先生とも気楽に話すことができるようになっていきました。私の周りには私の変化を認め、優しく受け入れてくれる人がたくさんいたのです。私は徐々に人と接することへの不安から解放され、人と温かい関係を結べるようになっていきました。そして、今は私が教師として生徒に声をかける立場になりました。

私の学校にも、人と関わるのが難しい子どもたちがいます。私は、そのような子どもたちも、いつか不安を乗り越え、人と温かい関係を結べるようになって欲しいと思っています。それには、きっかけを得て変わろうとする子どもを、優しく受け入れてくれる人の輪が必要です。子どもたちが1日の大半を過ごす学校には、そのような輪がなければなりません。子どもたちを誰一人、一人ぼっちの不安の中に置き去りにしないために、私はその輪をつくる一人になりたいと思っています。

\*

ミゲル フランシスコ マンニャラクさん

(翻訳者 21歳)

### 「彼女のためのカンペキな日本語」

「日本語教育なら、フィリピンでNo.1」。それは僕が今通っている大学です。だけど、No.1といってもカンペキではありません。僕にそれを気付かせてくれたのは僕の彼女でした。彼女は、日



本人とフィリピン人のハーフで日本生まれの日本育ち。2年前にフィリピンに来たのに、すでにビサヤ語がペラペラ。それに比べ、僕は13年間も日本語を勉強してきたけれど、サ

ボってばかり。なぜかという、僕にとって日本語より大事なものがあるからです。それは、愛、つまり、かわいい女の子と付き合うことでした。

そんな僕に面倒くさいことが起きました。彼女との会話は80%はビサヤ語ですが、あとの20%は彼女が日本語でしか分からない言葉だったんです。僕は辞書を片手に日本語を調べ、彼女はじっと待つことになってしまいました。それでも、何とか分かり合えていると思っていたら、間違いでした。

これは、ある日の僕の携帯メールです。「昨晚何してたの?」「昨晚? お爺さんみたい」「お爺さん? 20歳の僕が?」どうしてなのかさっぱり分からなかったの、日本語の先生に聞いてみると『「昨晚」は書き言葉っぽくて親しい人との話し言葉で使うのは硬いから古い、お爺さんみたいってことかな』と言われました。また、ある日は「君は美しいね」「美しい! キモい」「キモい? ほめてるのに」。彼女によると「美しい」というのは、もっと日常とか離れた芸術的なきれいさに対して使うのだそうです。それから、授業では名詞文の普通体は「～だ」と習ったので、彼女に「今日はデートだ」と言うと「ダサイ。今日はデート、だけでいいの」。ダサイって言われた僕ってダサッ。

これは大問題です。僕の日本語は、若者らしく、格好よく、クールに使えて、彼女に愛が伝わらなくちゃならないんです。どうして、こんなに使えないのか? 僕たちが受けた日本語教育はNo.1じゃ? 習った言葉や文型を使い分け、伝えたい相手との生きた会話に使えてこそカンペキな日本語です。そのためには、授業や教科書だけではなく、もっと日本人の話し相手が必要だと思えます。できれば、同じ世代の若者だと会話もはずむんじゃないですか。13年間も日本語を一度も使

おうとしなかった僕でさえ、彼女と付き合い始めてから日本語が好きになったのですから。

というわけで、今日も僕は愛する彼女のためにカンペキな日本語を目指して頑張っています。

## ベトナム

コン ヴー ホン ゴックさん

(会社員 23歳)

### 「25歳で死なないでください」

アメリカ独立に貢献したベンジャミン・フランクリンは「人はたいして25歳で死に、75歳でお墓に入る」と言いました。でも、25歳で死にたい人なんかいないと思います。

では25歳になった時、皆さんは何をしていますか? どのように生きていますか?

「生きる」とはどう考えたらいいのでしょうか? 私は「生きる」とは体が動いて、心もしっかりしていることだと思います。毎日、息をしているけど楽しみも幸せも感じられない人は半分死んでいると言えるかもしれません。なぜなら、心が死んでいるからです。体だけ動いているのは「生きている」ではなく、「存在している」ということだと思います。人の心は生きることに大切な役割を果たしています。ニュースや新聞によると、ストレスや悲しみが原因で自殺する人が多いそうです。私は、その人の心は自殺する前にすでに死んでしまっていたと思います。

それから、理想と夢を持っていない人は「生きている」とは言えないと思います。こう言うと、私は21歳で一度死んだことになりました。21歳の時の私は自分の生きる目的が分からなくて、どこにも行きたくありませんでした。毎日、家にいて、ゲームをして、ドラマを見ていました。本当につまらない生活でした。

人生の楽しみを25歳で終わらせてしまったら、もったいないと思いませんか? だから、皆さんも生きてください。意味がある人生を送ることが



できるように、心で感じる必要があります。暖かい日の出、涼しい風、きれいな空気を感じていますか？鳥の声や虫の声を聞いていますか？自然の声は、心に良いアドバイスをしてくれます。目で美しい景色を見て、口から人が幸せになるようなことを言ってください。

最も大切なのは自分の夢をしっかり持つこと。自分は何をすればいいのか、人生の役割をしっかりと考えて、一生懸命頑張ってください。失敗を怖がらないで、どんどん新しくて難しいことにチャレンジしてください。

若い時間は、人生のプレゼントだと言われていきます。この素晴らしいプレゼントを一緒に生かしましょう。25歳で死なないでください。

## マレーシア

シー イン ハンさん

(マレーシア大学 学生 21歳)

### 「心に刻んである場所」

小さい時から外国に憧れていました。大人たちに「外国の良いところ」や「マレーシアの悪いところ」などを聞かされ、外国に対する憧れは少しずつ大きくなりました。幼かった私の目に「外国」はとてもキラキラに見えて、外国を巡り、外国で働くことが夢になりました。マレーシアのこ

とはどうでもよかったんです。

しかし、いくつかの小さな出来事のおかげで「マレーシアは、やはり良いところだ」ということに気がきました。

私が一番衝撃を受けたのは、バトゥケーブスへ行った時でした。バトゥケーブスはクアラルンプール郊外にあるヒンズー教のお寺がある洞窟で、日本人の友達が誘ってくれました。最初、私は暑い中でわざわざ272段の階段を上るのは正直面白くないと思いましたが、今行かないと多分もう一生行かないと思い、行くことに決めました。駅から出た私たちを迎えたのは4億年もそこに立ってきた石灰岩、その周りにある色鮮やかなヒンズー教のお寺、そして金色に塗ったムルガン様の像でした。私たちはさっそく272段の階段を上ってみました。普段から運動不足の私には簡単ではありません。半分まで上った時、振り返ってみると、自分が今まで見たことのないクアラルンプールのスカイラインが目の前に広がりました。まぶしい日差しの中で、クアラルンプールはとてもきれいでピカピカに見えました。その瞬間、自



## 夢へのチカラを胸に未来を切り拓く

特定非営利活動法人アイセック・ジャパン (AIESEC)  
三浦祐依 (早稲田大学政治経済学部4年)

今回の日本語スピーチ・コンテスト優秀者招聘事業で、社会見学、大学訪問、文化体験(三味線と茶道)、スピーチ発表会などの運営に携わり、参加したASEAN学生たちのエネルギーに直接触れることができたことは、大きな刺激となりました。学生それぞれと話してみると、皆将来の夢を胸に、そのためのステップアップとして日本語を学んで来日し、日本とASEAN各国への理解を深め、未来へと着実に歩みを進めていました。スピーチをする姿は誇りと自信に満ちあふれ、「夢へのチカラ」はこれほどまでに人を強く輝かせるのかと、深い感動を覚えました。

日本滞り期間でもその姿勢は絶えず、特に文化体験では、浄瑠璃の都了中(みやこりょうちゅう)先生をお招きして

本格的な三味線の知識を教わりましたが、演奏を聴き、共に唄を語ることで日本文化の美しさや奥深さなどを肌身で体感し、より一層の日本理解を得た学生たちの表情は今でも鮮明に記憶しています。

また、ASEAN出身ながらも日本という異国の地で活躍する学生たちとの触れ合いを通して、私も中国でのインターンシップへ挑戦した2カ月間と当時の情熱を思い出し、さらなる自己研さんを続けようという気持ちが引き締まりました。

今回お世話になりました皆様へ感謝申し上げますとともに、自分自身も「夢へのチカラ」を新たに、グローバルに活躍できる人材となるよう努め、未来を切り拓いていきたいと考えています。そして、アイセックとしても、引き続きグローバルな舞台でリーダーシップを発揮できるような人材の育成・輩出を目指し、海外インターンシップの運営や社会への発信を通し、多くの若者が未来を切り拓けるように頑張りたいと思います。



分は今まで本当はマレーシアのことをちゃんと見ていなかったことに気がきました。

階段を上りきった先はバトゥケーブスの入口で、私たちは洞窟へ入り見物をしました。中は鍾乳石とヒンズー教神話の彫刻がたくさんあって、一番奥にはお寺がありました。洞窟の奥の部分は天井がなくて、暖かい日差しが差し込み、木の葉が舞い落ちて、不思議な感覚でした。それはとにかくきれいで、私は感動で言葉を失いました。光の中できらめく鍾乳石を眺めながら、私は思いました。「外国で求めてきた美しい景色は、自分のすぐそばにあるじゃないか。なぜ、もっと早く気付かなかったのか」。

マレーシアは、確かに今は発展途上国でいろいろ改善しなければならぬところもあります。ですが、私は確実に言えます。マレーシアは良いところです。今でも世界中の国を見ておきたいですけど、最終的に私の心の奥に深く刻んである場所はやはりマレーシア、私の自慢の故郷です。

\*

**チャン ウェン キットさん**

(テンビィインターナショナルスクール予科 学生 18歳)

### 「言語で世界をつなぐ」

僕が小学5年生の時、「第19回アジア太平洋子ども会議」の少年大使に選ばれて、福岡へ行くことになりました。日本の滞在期間は2週間。僕は初めて両親の元を離れて海外へ行くので、出発する前ずっといろいろ心配でした。しかし、日本へ行けるチャンスはとても貴重なことでしたから、期待と興奮で胸がいっぱいでした。

日本に着いて、まずカルチャーショックを受けました。例えば、マレーシアではヌードルを食べ



る時に音を出したら母に叱られるのに、日本ではズルズルと音を立ててラーメンを食べるのでびっくりしました。平日の朝8時ごろ電車に乗って、大勢の人にサンドウィッチのように潰されるという

経験もしました。マレーシアでは特大で快適なベッドで寝ていたのに、日本では、ずっと畳や石のような枕だったので腰が痛くなりました。

福岡の街はとても清潔で、ごみ収集車までも清潔です。一番記憶に残っているのは、僕がごみ捨て禁止のところでごみを捨ててしまった時、周りの人は僕を叱るどころか自分でごみを拾ってしまったことです。僕は恥ずかしくて、ありがとうということもできませんでした。

ホストファミリーとは主に日本語で話しました。ホストファミリーの子どもと折り紙をしたり、サッカーをしたり、一緒に学校へ行ったりしました。学校で勇気を出して友達と一緒に日本語で話しかけてみた時、彼は僕の下手な日本語を笑わないで助けてくれました。彼のおかげで日本語が上手になりました。今でも僕はホストファミリーとTwitterやFacebookで連絡を続けています。

日本に行く前に、このプログラムには50カ国以上から参加者が来ると知って驚きました。びっくりしたことに、参加者全員に通じる言語は1つだけで、それはやっぱり日本語でした。言語1つで、異なる習慣や文化を持つ僕たちが感情や意見を表せることがよく分かりました。言語を共有している参加者と一緒に話したり、遊んだりできたことは、本当に感動させられる体験でした。

この体験がきっかけで、言語がとても大切な架け橋だということがよく分かりました。いろいろな言語を勉強すれば、その国の特色や表現を知ることができます。違った文化や習慣なども理解でき、世界も平和になると思います。僕はこの願いをずっと持って、日本語の勉強をしています。

## ブルネイ

シティ ヌル アフィファ バイズラ ビンティ  
ハジ マット ヤシンさん

(ブルネイ大学大学院 院生 23歳)

### 「日本語の方言」

日本語を習えば習うほど、発見することは多いです。発見することは、難しいことも興奮させることもあります。日本語の方言はそういうものです。「方言」とは何だろうかと思ったら、次の状況を想像してください。「今日がんばらないとい



けない」と言うかわりに、「今日がんばらんってあかん」とか「今日がんばきやねどまいね」と言います。この例文は意味が同じです。使っている人がどこの出身かで違います。つまり、方言は地域で使われている言葉のいろいろなバリエーションです。バリエーションは言葉や意味や高低アクセントにあります。

日本語を習っていたら、1番目の例文が分かるはずですが。日本語の授業で教えられているし、日本のテレビ番組で使われています。それは標準語で、2番目は大阪弁で、3番目は津軽弁です。日本の歴史は古いし、国は山岳地帯が多いし、各地で話されている方言がたくさん存在しています。

一般に日本語の方言は東日本方言と西日本方言に分類されています。少し例をあげると、仙台弁は東北地方の方言の1つで東日本方言の一部です。仙台弁は助詞の「を」が「ば」になり、推量の「だろう」「でしょう」は「べ」になります。例えば、「教科書を持って来ましたか。次のクラスで使うでしょう」と言うかわりに「教科書ば持って来た？ 次のクラスで使うべ」と言います。

各々の方言は魅力があります。機会があれば、日本に住んだり旅行したりして、ぜひ方言を習うチャンスをつかんでください。しかし、ある方言はあまり使われなくなっています。だからこそ方言を維持することは大切だと思っています。そのために、いろいろな機関やグループが率先して、方言を維持しようとしています。YouTubeに方言についてアップロードをしたり、特定の方言についての教科書をつくったりしています。

方言は自分が生まれた地方のアイデンティティです。だからこそ、方言を維持するための努力を続けることは大事だと思っています。

## ラオス

スックウィパーワン シーサワットさん  
(公務員 24歳)

## 「今のラオスと携帯電話」

現在、携帯電話はとてでも進んでいます。ラオスでも携帯電話は新しくなっていて、いろいろなメーカーが、いろいろな種類の携帯電話を販売しています。皆さんの中で、携帯電話を持っていない人は非常に少ないと思います。携帯電話は生活の一部になりました。

昔は、携帯電話は電話とメッセージしかできませんでした。今はいろいろなことができるようになりました。例えば、テレビを見たり、音楽を聞いたりできるようになりました。また、インターネットを使って、相手の顔を見ながら話をしたり、写真を送ったりできるようになりました。外国へ行くときも、メールや情報チェックにとっても便利です。

一方、良い点だけではなく、問題もあります。「暇なとき何をするか」と聞かれたら、昔だったら、スポーツや音楽と答える人が多かったと思います。しかし今は、暇なときは携帯電話の画面を見ている人が多いです。その人たちは、FacebookやLINEなどでチャットをしたり、ゲームをしたりしています。また、授業中なのに先生の話や授業を聞かないで、携帯電話ばかりしている学生もいます。授業中に、友達からの電話に出るために教室を出る人もいます。さらに、仕事や会議の時、ゲームやFacebookをしている会社員もいます。

携帯電話に夢中になりすぎると、周りの人が離れていくのにも、気がつかないかもしれません。皆さんも、友達と食事しているのに、友達は携帯電話ばかり見ている、さびしいと思ったことはありませんか。私は、時や場所を考えて携帯電話を使ったほうが良いと思います。友達と一緒にいるときは、その友達と話をしましょう。また、学校では携帯電話を使わないほうが良いと思います。家でも、あまり長い時間使わないほうが良いと思います。

皆さんは、このような問題をどう思いますか。





## カンボジア

ヴァン チョムランさん (会社員 21歳)  
「ボランティア」

カンボジア人はボランティアをあまりしませんでした。ボランティアができるのはお金持ちとか、外国人だと思いました。実は誰でもボランティアができます。女の人も男の人も若い人もできると思います。本当かどうか一緒に考えましょう。

私も前は、ボランティアについて考えませんでした。でも実はしたことがあります。

中学校の3年生の時、学校で遠いところへ遊びに行きました。でも、途中で道が切れていて直しているところなので、行けませんでした。私たちはがっかりしてしまいました。先生は道を直している人を見て、「皆、手伝いましょう。遊びに行けなくても善いことをしますよ」と言いました。実は、私たちはやりたくなかったです。でも先生に言われたので、砂とか石などを運んだり、使った道具を集めておいたりしました。それから井戸まで水を取りに行きました。井戸は遠いので、私たちは歩きながら歌を歌ったり、ダンスをしたりしました。すればするほど楽しくなり、疲れた気持ちさがなくなりました。仕事が終わった後で工事の人たちが小さいパーティをしてくれ、1日中手伝っても楽しかったです。帰る前に、その人に大きい声で「本当にありがとうございました」と言われました。私たちはうれしかったです。

それから中学校を卒業する前に、友達に誘われて、そこへもう一度行きました。道に着いてみて「私たちがつくった道だ」と一緒に言いました。私は手伝って役に立ったと思います。

他にもう1回、学校を建てるのを手伝ったことがあります。学校を建てるお金が足りなかったの  
で、先生が私たちを連れてその学校へ行きました。私たちはヤシの葉っぱを集めたり、大きい木を運んだりしました。毎週日曜日、私たちはその学校へ行って建てました。3カ月で、ヤシの葉っぱの学



校が1つ建てられました。学校ができたとき、私たちは一緒に「できた」と言いました。子どもでしたが、ボランティアができました。

ボランティアはそんなに大きい仕事じゃなくてもいいです。できることをしたらいいです。ボランティアをすれば情報ももらえるし、良い経験になるし、それに社会を手伝えます。

皆さんはボランティアをしたことがありますか。一緒にボランティアをしてみませんか。 ■

## 努力と愛国心が支えるASEANの成長



コーディネーター 梶原喜代重  
(日本在外企業協会 業務部主幹(当時))

インドネシアのルクマンさんのスピーチのテーマは「私の勇者」でした。お父さんの幾多の苦難にもくじけない姿勢に対し、ルクマンさんは勇者という勲章を捧げて尊敬していました。お父さんの頑張りや、ルクマンさんの誠実な人柄と努力として結実しているように見えました。

もう1人のインドネシアのアルドさんのスピーチのテーマは「自分の国への思い」でした。普段は意識しない自分の国の良さを、インターネットを通じて海外の友人から教えてもらい、自分の国への愛情に目覚めたようですね。外から自分や自分の国を見直すことは良いことだと思いました。来年は広島にある不動産会社に勤めるとのこと、頑張ってください。

タイのパスウィーさんのスピーチのテーマは「人工ダイヤモンド」。自分の中でまれにしか見つからない才能を天然ダイヤモンドにたとえて、それがないと嘆くよりも自ら自分のダイヤモンドを作ること、努力して自分の才能をつくり出すこと、それが人工ダイヤモンドであり、大切だと言っていましたね。この心を持っている限り、あなたの未来は明るく輝くことでしょう。

同じくタイのティラポンさんのテーマは「象と話せる言葉と外国語」でした。自分が生まれたスワイ村の方言や伝統に誇りを持ち、言葉の魅力について話していましたね。将来、かつて象と話



企業訪問、日本語の学習講義、異文化体験、名所観光などのプログラムで日本を体感  
←日本語の講義。左端は長谷川孝子講師（東京大学日本語教育センター非常勤講師、立教大学兼任講師）



一中節・浄瑠璃方の都了中  
(みやこりょうちゆう)氏による  
三味線実演



この機会ですつながった新しい仲間たち

せたスワイ語を復活させてくれることを大いに期待しています。

フィリピンの**ジョヴィリンさん**のテーマは「輪をつくる一人になりたい」でした。自分が悩んでいた人との交流を日本語スピーチ・コンテストへの出場を機に克服したお話は、同じような悩みを持っている人たちにとって大きな励ましになると思います。ジョヴィリンさんならそのような人たちをつなぐ輪になれると確信しています。

同じくフィリピンの**ミゲルさん**のテーマは「彼女のためのカンペキな日本語」。その国の言葉を身に付けるのに一番良い方法をミゲルさんは知っているんだなと思いました。これからも彼女がクールだと思うような日本語にますます磨きをかけていってください。

ベトナムの**ホンゴックさん**のテーマは、「25歳で死なないでください」でした。その中で理想と夢を持っていない人は「生きている」とは言えないと言い、自分もかつて持っていなくて、つまらない毎日を送っていたそうですね。しかし今は生き活きとして将来は実業家になって成功したいと言っていましたね。成功を遠くから見守ってあげたいと思いました。ガンバレ、ゴックさん！

マレーシアの**ハンさん**のテーマは、「心に刻みである場所」。小さい時から外国に憧れていたハンさんは、自分の国マレーシアの良いところが見えませんでした。しかし外国人の友人から誘われて行ったパトクテープズで、自国の素晴らしさがこんなに近くにあることに気がきました。今は自信を持ってマレーシアは良い国だと言えるようになったことは、ハンさんにとって最高に幸せなことですね。

同じくマレーシアの**ウェンキットさん**のテーマは、「言語で世界をつなぐ」。小学5年生の時参加

した少年大使の経験から違った文化や習慣を持つ国や人々をつなぐ言語の大切さを体験しました。素晴らしい体験でしたね。将来小児科医になりたいと言っていましたが、世界中の子どもたちを診てあげることができる医者になってくださいね。

ブルネイの**アフィファさん**のスピーチのテーマは「日本語の方言」。スピーチの中で仙台弁を話していましたが、日本人でもあまり知らない方言を流暢に喋っていたことには驚かされました。そして方言は地方文化のアイデンティティとして守っていくことが大切だと言っていましたね。日本人にとっても考えさせられるテーマでした。

ラオスの**シーサワットさん**は、スピーチの中で携帯電話の使い過ぎについて語っていました。これは日本でも同様で、本来使ってはいけない場所で使ってしまうケースが多く見られます。シーサワットさんが言われる通り、友達と一緒にいる時はその友達と話をしましょう。人のお付き合いの基本ですよ。

カンボジアの**チョムランさん**のスピーチのテーマは「ボランティア」でした。中学生の時に先生に言われて参加したボランティア活動で、感謝されることへの喜びを知ったようですね。ぜひこの喜びを、友達や後輩に広げてほしいと思いました。

\*

優秀者の皆さんと接して感じたのは、皆頑張り屋であるということと、愛国心を持ち、将来は自分の国や地域のために役立ちたい、そのために一生懸命勉強したいと強く思っていることです。彼ら・彼女らのこのような心意気が、現在のASEAN諸国の経済成長の大きな原動力なんだと、実感した日本語スピーチ発表会でした。 ■